

研 究 紀 要

家 庭 部 会

実 践 発 表

地域や関係機関等との連携・交流を通じた授業実践

青森県立柏木農業高等学校 教諭 小野 照美…… 1

総合学科福祉健康系列における考え方を働かせた授業実践

青森県立七戸高等学校 教諭 玉舘 香奈子…… 6

研 修 報 告

令和4年度全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会 講演Ⅰ・Ⅱ

第32回全国産業教育フェア青森大会 …………… 11

部会の動き …………… 12

研究テーマ …………… 14

紀要編集委員 清水端 由 香（青森県立百石高等学校）

家 庭 部 会

実践発表 1

地域や関係機関等との連携・交流を通じた授業実践

青森県立柏木農業高等学校 教諭 小野 照美

1 はじめに

本校は、今年度で創立97周年を迎える歴史と伝統のある農業高校である。卒業生は、農業界はもとより、行政、政界、芸術、スポーツなどの幅広い分野で活躍する人材を輩出している。

現在は、生物生産科、環境工学科、食品科学科、生活科学科の4学科を設置している。「誠実」「勤勉」「公正」の校訓の精神のもと、あらゆる教育活動をとおして、よりよく問題を解決する力や豊かな人間性、健やかな体などの生きる力を育むとともに、産業の担い手としての資質・能力を身につけさせ、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指している。

また、近年では、広大な農地、充実した施設・設備の中での学習を通して、「全日本学校関係緑化コンクール文部大臣賞」の受賞、「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の受賞やGLOBAL G. A. P. 認証（りんご・米）取得、青森版HACCP認証を取得した。更に、生徒の海外研修や農産加工品の海外輸出なども実施しており農業のグローバル化にも取り組んでいる。

進路については、公務員を含む県内・県外就職と、大学・専門学校等の進学とに分けた場合の割合は年度により異なるが、進学より就職の方がやや多い状態が続いている。

2 テーマ設定の理由

今年度の県高教研家庭部会の研究テーマは、「家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践」である。学習指導要領の「家庭」の目標として、「生活の営みに係る見方考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して・・・。」とある。また、学習指導要領解説には、「深い学びの鍵として見方・考え方を働かせることが重要になる。」とある。その授業実践のために、主として捉える視点として

- 1、協力・協働
- 2、健康・快適・安全
- 3、生活文化の継承・創造
- 4、持続可能な社会の構築

の4つがあげられており、取り上げる内容や題材構成等によってどの視点を重視するのかを適切に定める必要があることを受けて、主として捉える視点ごとに実践内容をまとめることにした。

また、4つの視点を意識しながらも、職業高校である本校の特性を生かし、地域の行事や催しなどに積極的に関わり、農業高校ならではの学習を取り入れていきたいと思いこのテーマにした。

3 実践内容

(1) 協力・協働を主として捉える授業

① 保育分野（家庭総合・こどもの保育と発達）

平賀保育園の園児へプレゼントするための絵本作り

みんなつながる食育推進事業として、りんごの収穫とりんご料理作りを生徒が指導する食育講座を実施することになっている。その時に、園児へプレゼントする絵本を作成した。テーマは、「りんごができるまで」とし、りんご収穫量日本一の青森県で育つこどもに知ってほしい内容にすることにした。タブレットで検索しながら下書きをし、点検を受けた後に清書をした。みずぐりを知らない生徒がいて驚いたが、生徒達は「りんごの誕生日」・「りんごの一生」・「りんごとミツバチの物語」など、題名

をアレンジして楽しそうに作成していた。

少子化に歯止めがかからない今の時代を生きている生徒に、絵本作りを通して、親や家族だけでなく地域や社会全体がこどもと関わることの意義を知り、地域社会が一丸となって人を育てていくことの大切さを感じてほしいと思い実施した。

今回の食育講座は2年生が担当するが、絵本作りは3年生に担当してもらうことにより他学年とのつながりも生まれ、地域との連携だけでなく生活科学科内の連携もできたことがよかった。



手作り絵本の下書き



製作中の生徒の様子



完成品

完成した絵本は・・・

- ① 柏農祭の生活科学科展に展示する。
- ② 高校生が主体となって行う園児対象の食育講座でプレゼントする。

(2) 健康・快適・安全を主として捉える授業

① 衣生活分野（家庭総合の学校家庭クラブ活動）

手作りマスクの寄付活動

コロナ禍でマスク不足が深刻化し、各家庭でもマスクの調達が困難だった時期があった。そのため手作りする人も多くなったことから、今度はマスクの材料である布やガーゼ、ゴム紐などの入手が困難になったことがある。特に既製の子供用マスクが不足している状況となった。そんな中、マスクの材料を弘前アップルロータリークラブ様に準備していただき、子供用のマスク作りに取り組むことができ良い経験となった。完成したマスクは、同じ平川市内の尾上総合高等学校の生徒さんが作成した分と合わせて、合計700枚を平川市内の幼児に寄付した。生徒たちの行動が、地域の生活課題を解決する奉仕的活動となったと思っている。



マスク作りの様子①ミシンがけ



マスクづくりの様子②ゴム通し



完成品



平川市長表敬訪問

表敬訪問で話した本校生徒のコメント

私たちが作った、「手作りマスク」によって、自分の健康、そして大切な人の健康を守る行動を考える、きっかけになればうれしいです。

長尾平川市長のコメント

みなさんからマスクを受けとったこどもたちの心にはきっと恩が残っていく。これからは奉仕の心を忘れずに、生かしてほしい。

(3) 生活文化の継承・創造を主として捉える授業

① 食物分野（フードデザイン）

料理コンテストの挑戦（たまごニコニコ料理甲子園）

たまごニコニコ料理甲子園とは、たまごの素晴らしさをより多くの方に知ってもらおうとたまご料理にスポットを当てて味やアイデアを競うたまご創作料理コンテストである。全国の高等学校から作品を募り、書類選考によりエリア予選を行い各エリアから1作品選出される。エリア代表に選出された学校は、東京で開催される決勝大会に進出した。決勝大会では、応募作品をレシピ通りに実演して、グランプリ、準グランプリ、その他の賞が決定する。

本校生徒は、フードデザインの授業でたまごの5つの調理上の性質について学習した後、オリジナルの料理を考案し、試作し、応募した。一次審査では、北海道・東北エリア代表に選ばれ決勝大会に進出した。作品名は、「とろっとたまごのバウムサンド」である。作品の特徴は、パンではなく、普段スイーツとして食べているバウムクーヘンを作りポーチドエッグをサンドした作品。

決勝大会は、応援ビデオレターが流れる中、大会準備が進められ、開会式の後、調理がスタートし

た。一人前当たりたまごを2個以上使用し、下準備を含めて60分の制限時間内に調理することが条件。審査では、「味付けの良さ」「見た目の良さ・盛り付け方・彩りの良さ」「創造性」「調理のしやすさ（普及性）」「栄養のバランス」「ストーリー性（こだわり）」について評価され、各賞が決定した。決勝大会では、本校の生活科学科3年生の生徒が「彩（いろどり）賞」を受賞した。また、たまご券1万円分を副賞として受賞した。



本校生徒の応募作品



決勝大会参加



決勝大会の様子



入賞作品



入賞作品レシピ

② 食物分野（課題研究）

十代の寺子屋への参加

平川市の教育委員会が主催する十代の寺子屋は、市内の小学校高学年から高校生を対象にした、文化・暮らし・食育体験講座である。本校生徒は、食育講座をメインに参加し、数種類の講座の中から選んで参加した。夏休みと冬休みの食育講座に参加し、休み明けに他の生徒と共有するようにした。

<生徒が参加した食育講座>

わさもどら焼き

王様パフェ

バナナポート

しょっぱいおやつ

パティシエ入門

O-BENTO

手作りジャム教室



生徒達は、食育講座に参加した後、班員と作り方を共有するために調理実習を行い、班員に教えることで、更に勉強になったことを実感していた。人に伝えるためには、振り返りが必要であることを感じ取っていた。また、食育体験講座に参加したことで、講師の大学の先生、専門家、地域の活動団体の方々から指導を受けながら、小・中学生と食を通してコミュニケーションをはかることができた。

生徒達は、活動を通して食の持つ力も感じ取ることができた。人を笑顔にする力、元気にする力、文化の伝承、世代間交流、家族や地域をつなぐ力など多くの役割があることを感じ取ることができた。私たちの誇りである日本の食を、そして地域の食を継承していくためにも、これからも、地域の方々から学んだことを様々な人に伝承してほしい。



学校祭展示



振り返り学習の様子



振り返り後の実習作品

生徒の感想

十代の寺子屋に参加して、地域の方々とたくさん交流を深めることができました。十代の寺子屋で教えてもらったことを班員みんなでシェアすることで、自分もみんなも、より内容を深く知ることができました。

※他者に伝授することで探求的で深い学びになった。

③ 食物分野（課題研究）

県産食材を使ったスイーツの商品開発

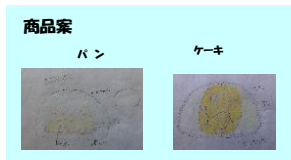
地産地消を目指し、ローソンとの商品共同開発を行った。生徒達は商品案をたくさん考え、何回も考案、試食、検討を重ね商品が決定した。この年は多くのアイディアが出されたため、初めて2種類の商品を同時に発売してもらうことができた。一つは、りんごを使ったパンで、「柏農アップルフロマーヂュ」という名前に決まった。青森県産米粉、青森県産津軽海峡の塩、チーズ、青森県産りんごダイス、県産牛乳を使った商品で価格は145円に決定した。もう一つは、りんごを使ったケーキで、「柏農お

もちで包んだりんごケーキ」という名前に決まった。おもちの中にカステラ生地，青森県産牛乳使用のホイップクリーム，青森県産りんごジャム，青森県産りんごプレザーブを入れたケーキで価格は270円に決定した。

ローソン平賀店での店頭販売実習では「柏農アップルフロマージュ」は331個，「柏農おもちで包んだりんごケーキ」は155個売り上げた。また，柏農祭でPR販売を実施し，2日間で「柏農アップルフロマージュ」は350個，「柏農おもちで包んだりんごケーキ」は180個売り上げた。青森県内のローソンでは約3か月間，126店舗で販売された。販売期間内の売り上げ数は「柏農アップルフロマージュ」は8,211個，「柏農おもちで包んだりんごケーキ」は5,985個だった。



青森県産食材



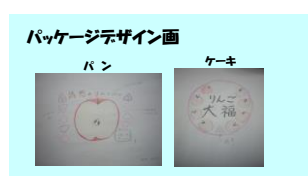
生徒が考案し採用された商品案



試作品



試作品の検討



生徒が考案し採用されたパッケージ案



製造工程の見学



県知事表敬訪問手作りの紙芝居による商品説明



発売された商品①



発売された商品②



店頭販売実習



販売用ポスター



柏農祭販売実習

商品のアイディアをたくさん出したが，季節が合わない，使えない食材がある，もうすでに商品化されているなどの理由で採用されないものが多くあり，商品開発の大変さを知った。同時に，自分達で考案したものが，ようやく商品になって販売されることの喜びを味わうことができた。

インタビューに答えた生徒のコメント 新聞にも掲載された内容

今までにない味や食感をつくらうと取り組んできた。苦労が報われた。幅広い層の人に食べてもらいたい。

④ 食物分野（課題研究）

6次産業化推進作目をテーマとしたレシピ提供

地元平川市で実施された「ひらかわフェスタ2022」の開催にあたり，実行委員長よりレシピ提供の依頼があったことから，レシピ考案を行った。地産地消や食育の推進と6次産業化商品を作り出すことが目標である。6次産業化推進作目は，米，大豆，りんご，もも，ブルーベリー，おうとう，マルメロ，トマト，ミニトマト，にんにく，いちご，だいこん，にんじん，やまのいもとなっている。その中から1つ以上使用した料理であることが条件である。

このことを受け，6次産業化推進作目のうち，米（米粉）とりんごを使用した「すりおろしりんご入り米粉団子のデザート」を考案し提出した。レシピはひらかわドームに展示された。



試作している様子



完成写真



ひらかわフェスタメイン会場



パネル展示されている様子

(4) 持続可能な社会の構築を主として捉える授業

① 消費生活分野（家庭総合・課題研究）

SDGsに取り組む

持続可能な社会の実現には、環境に配慮した商品の購入や廃棄だけでなく、生産過程において児童労働が関係していないか、フェアトレードによって取引されているかなどの社会的意義を考える必要があることを学ばせる。

生徒が興味を持ちやすいように、私達の身近にある食べ物を題材として授業をした。まずチョコレートを通して、現在の世界的な課題について考え行動することを目標にした。生徒への質問で、フェアトレードの意味やしくみを知らない人が半数以上いることが分かった。このことを受け、フェアトレードについての学習や関連する商品の調査を実施した。チョコレートについては、フェアトレードマークのついているものを各自が探すことから始める。そして、購入・調査をした後に、生徒に発表してもらった。その結果として地域の販売店名や商品の価格などの情報をまとめたポスターを作成した。作成したポスターは学校祭の生活科学科展に展示し、広報活動をするなどしてSDGsに取り組んだ。

生徒は、自分が選択していること、自分の行動を確認させることで、エシカル消費の実践のためのシティズンシップを培うことができたと思っている。



導入で使った書籍



授業で使ったウェディングケーキモデル



フェアトレード商品の種類の資料



マークを確認して生徒が地域の商店から購入してきたチョコ

文化祭の展示写真

4 まとめ

今年度、発表の機会をいただいたことで、今までの取り組みを振り返り整理することができた。

今までの活動を振り返ると、いろいろなことが思い出され、生徒たちの姿や表情が浮かんだ。生徒が持っている力を改めて感じる事ができた。生徒は、外部の方々との関わりの中で、大きく成長することができたと思っている。そして、地域の方々・関係機関の方々の協力があったことで、実施できたことも多くあり大変感謝している。

私は、本校に赴任して色々な体験ができた。これは、生徒の頑張りのお蔭と先生方のご協力があったからだと思っている。教員生活も残り少なくなってきた。コロナ禍で生徒たちの活動が制限される日が続くなど予期せぬことが起き、思うように活動ができなかった時もあったが、家庭科の教員として最後まで頑張っていきたい。

今回の高教研家庭部会の研究テーマにもあるように、家庭科における見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動の積み重ねによって、今後も生徒たちの力を育てていきたいと思っている。

総合学科福祉健康系列における考え方を働かせた授業実践

青森県立七戸高等学校 教諭 玉館 香奈子

1 はじめに

本校は大正15年に開校し、平成8年学科改編により県内初の総合学科となった。現在は全年次3クラスで、1年次の産業社会と人間（総合学科の原則履修科目）を通して系列や科目を選択し、2年次からは人文科学系列、自然科学系列、情報ビジネス系列、福祉健康系列の4系列に分かれて、進路達成に向けて取り組んでいる。平成30年告示の学習指導要領家庭科では、家庭基礎のほかに、人文科学系列で保育基礎、保育実践、ファッション造形基礎を、自由選択科目として系列にかかわらずどの生徒もフードデザインを選択することができる。本校の総合学科は、柔軟な科目選択を実現できるように多くの自由選択科目を設定し、その半数が学校設定科目である。例えば、令和6年度から開講する福祉科の「認知症の理解」は、福祉健康系列の生徒は全員選択するが、他に、医療系の進学を目指している生徒や超高齢社会における教養を学びたい生徒に対しても開設している。学校教育目標は、情操豊かで他を尊敬できる人間の育成、勤労と責任を重んじ社会に貢献できる人間の育成、常に自己を啓発し逞しく未来を創造する人間の育成としている。

また令和3年10月には、七戸町が設置し株式会社 Birth47 が運営する七戸公営柏葉塾が開設された。柏葉塾は本校生徒であれば誰でも無料で通塾でき、全校生徒の三分の一が利用している。常時開設する総合的な公営塾としては県内自治体では初の取り組みとなる。

2 テーマ設定の理由

本校に赴任し5年目である。前任校から11年間家庭科ではなく教科福祉を担当している。そのため家庭部会であるが、福祉科の実践を発表することとした。

令和3年度は社会福祉基礎、介護福祉基礎、介護過程、介護実習、介護総合演習を、令和4年度は、社会福祉基礎、介護福祉基礎、介護過程、こころとからだの理解を担当している。系列の在籍生徒は令和2年度入学生が9名、令和3年度入学生が8名、令和4年度入学生は12名（予定）と少人数である。それに対し系列の教員は4名で、学習面、生活面から進路活動まできめ細かい指導を努めている。福祉健康系列の生徒は、原則全員介護福祉士を希望しており、全員が同じ目標に向かって積極的に学習している。素直で落ち着いている一方、自ら進んでリーダーとなる者が少なく、学びや継続して努力することに対する自己肯定感が低い傾向にあることから、主体性と積極性を伸ばす必要があると考える。

さらに本校ではグラデュエーションポリシーを七高GP「柏葉プライド」とし、自己肯定力、実行する力、考え抜く力、協働する力、郷土を愛する力の5つに設定し、行事等の教育活動ごとに生徒が5段階のルーブリック評価により自己評価している。

3 実践内容

（1）介護実習・介護総合演習・介護過程における自己肯定力、実行する力を働かせた実践

① 介護実習の概要

1 目的・目標

介護に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、社会福祉の向上を図る実践的な能力と態度を身につける。

（Ⅰ期）介護に関する各科目において学習した知識と技術を介護業務の見学・実施を通して理解を深め、日常生活における基本的な介護を行うために必要な能力と態度を習得する。

（Ⅱ期）在宅介護・通所介護・身体障害者介護等を通して、様々な現場における介護の役割を理解し、

必要な知識・技術を習得する。

(Ⅲ期) 介護過程の展開を通して問題解決の能力を養い、福祉サービス提供者としての総合的な能力と態度を身につける。

2 実習形態および実習期間

・実習形態 週1日(原則木曜日) 1日実習

(3年次生徒の木曜日の時間割は、1～4校時が介護実習、5～6校時が介護総合演習)

・実習期間 I期: 5～6月 計5回 II期: 6～9月 計8回(夏季休業中を含む)

Ⅲ期: 10～12月 計7回

・総時間数 20日 160時間

- 3 実習施設(令和4年度) 社会福祉法人美土里会 美土里荘デイサービスセンター様
社会福祉法人みやぎ会 介護老人保健施設とわだ
社会福祉法人新生会 障害者支援施設上北療護園
医療法人仁泉会 介護老人保健施設ハートランド
医療法人健仁会 介護老人保健施設ナーシングセンター柏葉



通所施設でレクの
デモンストレー
ションをしている様



障害者支援施設で
水分補給の介助を
している様子



老人保健施設で、
ボードを用いて自
己紹介をしている



障害支援施設で利
用者様と完成させ
たちぎり絵カレン

② 介護実習における行動計画作成

事前に生徒各自で一日の目標を設定する。それまでの実習で自分ができたことやできなかったこと、さらにアセスメントをもとに、受け持ち利用者の実態に合わせた目標(長期目標及び短期目標)を設定して実習に臨む。

③ 介護実習における個別援助計画作成

Ⅲ期では生徒は受け持ち利用者を1名担当し、その利用者の個別介護計画を作成する。個別介護計画とは介護支援専門員が作成したケアプランに対して、利用者や家族の望む生活、ニーズ、長期目標、短期目標を達成できるように、介護独自の支援の視点から介護過程を展開するために立案するものである。この立案は、介護過程の授業内や課外の課題として取り組む。

実習後の介護過程の授業内では、短期目標に対しての評価や実習内容を一人ずつ発表する時間を設定し、情報を共有する場としている。これにより、他の施設の実習状況の把握ができたり、みんなの前での発表が事例研究発表会のリハーサルになったりしている。

④ 事例研究発表会

1 実施時期 12月

2 参加者 福祉健康系列2, 3年次生徒, 1年次福祉健康系列希望生徒, 実習施設の指導者, 校長, 教頭, 年次主任, 担任等

3 目的

- ・3年次介護実習における受け持ち介護について、介護過程を事例研究し、研究レポートとしてまとめ発表する。(問題解決能力の育成・発表力の育成)
- ・2年次系列生, 1年次系列希望生の参加をとおして, 3年次での学習内容, 教科の理解と介護福祉士を目指す心構えを育成する。
- ・実習施設へ案内することにより, 地域との相互関係の充実を図る。

- 4 方法 一人ずつパワーポイントによる。
- 5 発表内容 受け持ち利用者について（入所前の生活状況，サービス利用に至った理由，現在の状況，ADLの状況），介護の展開（課題，援助内容，援助方法），実施状況，評価，考察



3年次生が発表している様



質疑応答で2年次生が質問
している様子



各施設の指導者の講評を聞
いている様子

（2）七戸養護学校との交流学习におけるグラデュエーションポリシーの活用

福祉健康系列では，同じ七戸町内にある七戸養護学校との交流及び共同学習を継続して行っている。以下は令和4年度の実施状況である。

- 1 スポーツを通して行う交流及び共同学習（ボッチャ，フライングディスク）
 日 時 令和4年6月10日（金）9：10～10：50
 場 所 七戸体育館
 参 加 七戸高校 福祉健康系列2年次9名，3年次9名，系列職員4名
 七戸養護学校高等部1年生及び重複学級生徒31名，職員16名
- 2 絵画制作を通して行う交流及び共同学習
 日 時 令和4年9月5日（月），9月12日（月）13：00～14：20
 場 所 七戸養護学校
 参 加 七戸高校 福祉健康系列2年次9名，3年次9名，系列職員4名
 七戸養護学校重複学級生徒16名，職員11名
- 3 地域の伝統的活動を通して行う交流及び共同学習（トラジョサンバ）
 日 時 令和4年10月28日（金）9：10～10：50
 場 所 七戸体育館
 参 加 七戸高校 福祉健康系列2年次9名，3年次9名，系列職員4名
 七戸養護学校高等部2年生及び重複学級生徒37名 職員16名
- 4 いろいろな活動を通して行う交流及び共同学習
 日 時 令和4年11月11日（金）9：10～10：50
 場 所 七戸養護学校
 参 加 七戸高校 福祉健康系列2年次9名，3年次9名，1年次系列希望者12名，
 系列職員4名
 七戸養護学校高等部2年生及び重複学級生徒38名 職員16名

七戸養護学校の生徒は，毎回高等部や重複学級の同じ生徒が参加するため，生徒同士は顔馴染みになり，両校生徒は交流の日を楽しみにしている。今回は，令和4年9月に実施した「絵画制作を通して行う交流学習及び共同学習」を取り上げる。

① 事前準備

- ・七戸養護学校の担当の先生と事前に打ち合わせをする。
- ・可能な限り福祉科の授業として扱い、福祉科の授業がある時間に交流する。福祉科の授業時間以外の場合は、その授業を公欠とする。対外行事参加願及び参加承諾書を提出する。
- ・七戸養護学校までは後援会バスで移動する。授業として扱うため、運転手代とガソリン代はPTAから支出できている。

② 2年次への事前学習

- ・科目「社会福祉基礎」の障害者福祉において、身体障害者、知的障害者、精神障害者（発達障害を含む）のそれぞれの現状と課題
- ・科目「コミュニケーション技術」において、コミュニケーションの具体的な事例、演習を通してのコミュニケーションの基本技術、目線、表情、言葉の語調、身だしなみ、適切な距離、感情表出の察し方、納得と同意の得方、質問の仕方、意欲の引き出し方、非言語的コミュニケーション

③ 3年次への事前学習

- ・2年次の学習内容の復習
- ・科目「こころとからだの理解」の障害の理解において、障害別の基礎的理解と特性に応じた支援

④ 当日の様子



後日行われる七戸養護学校の体育祭で使用する旗の制作を、協力して行った

⑤ 七高GP「柏葉プライド」（グラデュエーションポリシー）より

意識した七高GPについて

- ・ほめることを意識した。ほめることで楽しく活動したので、相手も自分もコミュニケーションをとりながら絵画に取り組むことができた。
- ・養護学校の生徒の意思を尊重して一緒に交流することを意識した。介護実習と同じように養護学校の生徒が自己決定できるよう心掛けた。
- ・協働する力を意識した。色を塗るのを手伝ったり、使ったものを洗ったりした。
- ・筆を出すなど自分でできそうなことはしてもらった。あとは言葉遣いに気を付けた。

交流学習で学んだこと・深く考えたこと・疑問に思ったこと

- ・はじめは養護学校の生徒が恥ずかしがってうまく話せなかったが、慣れてくると話せるようになった。相手によって、対応の仕方を変えることが大事だと思った。
- ・担当した生徒は、睡眠状況によって症状が変わるので少し難しかった。
- ・掛け声はリズムよくする。
- ・質問に答えるまでに時間がかかったり、答えられなかったりする時があって、養護学校の先生に具体的に質問する、閉じられた質問をする、とアドバイスしてもらった。
- ・養護学校の生徒は発想が豊かでとても素直だった。
- ・非言語的コミュニケーションを活用することで、最後まで楽しく活動できた。

今後伸ばしたい能力・獲得したい能力とそのために実行したいこと

- ・自然と会話ができるように、相手の話しやすい話題をそれとなく理解できるようにしたい。
- ・今後会話する能力や自分から行動する能力を伸ばしたい。
- ・どんな状況でも、たくさんの方と会話をしていきたい。
- ・状況へ柔軟に対応できる力を伸ばしていきたい。

⑥ 交流学习後

七高G P「柏葉プライド」（グラデュエーションポリシー）は、担当教員→年次・系列主任→教頭→校長の順に回覧後、生徒に戻され「夢サプリ」という総合的な探究の時間用のファイルに綴られ、探究活動や進路活動に活用される。

各行事のたびに七高G Pを記入するので、5つの力を意識した取り組みができています。また、個人差はあるが自分の考えを文章で表現する能力も向上したと感じられる。教員からの働きかけの材料ともなっている。

4 まとめ

前任校と本校とで福祉科を教えて13年目になる。前任校1年目と七戸高校1年目は戸惑いも多かったが、最近ようやく教科全体を把握できるようになってきた。その反面、家庭科教育からは随分遠ざかっている。

テーマ設定の理由でも述べたが、本校の福祉健康系列の生徒は全員介護福祉士を目指しており、授業内容は国家試験に基づいたものである。学ぶ側と教える側の方向性が一致しているため、我々教員はやりがいと使命感を持って毎日の授業を行うことができ、生徒たちも必死についてきてくれている。

介護保険の理念は自己決定と自立支援、個人の尊厳である。それらは介護に携わる者の姿勢と直結し、具体的な生活場面でどのように実現させていくのかを、アセスメントをとおして常に考え方を働かせた実践が求められる。七戸養護学校との交流学习では、普段の授業では消極的で声も小さい生徒が、養護学校の生徒にどんどん話しかけている様子が見られた。養護学校の先生に対しても、積極的にコミュニケーションを取っていた。他校の教員、施設の指導者や利用者等、通常接している大人以外の人と接する場面が多く、それが大きな成長につながっていると感じる。結果的に問題解決能力や主体的な学びに結びつくことを意識して、指導を続けていきたい。

一昨年から続くコロナ禍でも、施設による実習をほぼ通常通り実施することができた。これは、生徒たちの自己管理はもちろん、これまでの福祉科の先生方や施設に就職して活躍している卒業生や各施設の皆様との信頼関係のおかげだと感じる。施設に介護実習の巡回に行くと、本校の福祉健康系列の卒業生が指導者として対応してくれるのが非常に頼もしい。

本校福祉科では、来年度より新しい学習指導要領に対応した授業がはじまる。ICTをはじめとした学習内容や評価方法、学習支援について勉強を続けたい。

研修報告 1

令和 4 年度 全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会 講演 I・II

- 1 期 日 令和 4 年 9 月 9 日 (金)
- 2 会 場 弘前パークホテル 〒036-8182 青森県弘前市土手町 1 2 6
TEL 0172-31-0089 FAX 0172-39-6656
4階 ラ・メエラ
- 3 日 程 家庭科教員受付 13:00～13:30
講演 I 13:35～14:25
休憩 14:25～
(全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会研究協議・情報交換 14:40～15:30)
講演 II 15:30～16:20
- 4 講演講師及び演題
講演 I イエティワールド株式会社 代表取締役 山端 家昌氏
「こぎんデザインの仕事」
講演 II 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
参事官 (高等学校担当) 付産業教育振興室教科調査官 山村 季代氏
「学習指導要領の着実な実施を目指して」

研修報告 2

第 3 2 回全国産業教育フェア青森大会

- 1 期 日 令和 4 年 1 0 月 1 5 日 (土) ・ 1 6 日 (日)
- 2 会 場 新青森総合運動公園マエダアリーナ (メイン会場)
アピオ青森 (全国高校生クッキングコンテスト)
東奥学園高等学校 (全国高校生介護技術コンテスト) 他
- 3 開催内容 総合開会式・総合閉会式
作品展示 (体験・実演含む) 展示販売 作品・研究発表 意見・体験発表
県内企業魅力体験 (展示・体験) ファッションショー
全国高校生クッキングコンテスト
全国高校生介護技術コンテスト 他

部 会 の 動 き

自 令和 4年3月

至 令和 5年3月

5月30日（月） 県高教研家庭部会第1回役員会 於 青森県総合学校教育センター（青森市）

1 報告事項

- ①令和3年度高教研家庭部会事業報告
- ②令和3年度高教研家庭部会会計監査報告
- ③令和3年度高教研家庭部会一般会計決算報告
- ④令和3年度高教研家庭部会特別会計決算報告

2 協議事項

- ①令和4年度高教研家庭部会役員名簿案
- ②令和4年度高教研家庭部会事業計画案
- ③令和4年度高教研家庭部会一般会計予算案
- ④令和4年度高教研家庭部会特別会計予算案
- ⑤令和4年度高教研家庭部会研究発表大会担当者輪番表案
- ⑥令和4年度高教研家庭部会研究発表大会発表者輪番表案
- ⑦令和4年度意見集約者案
- ⑧令和5年度総会並びに研究発表大会について案
- ⑨研究テーマについて

3 その他

- ・高教研家庭部会事務局より
- ・青森県高等学校家庭クラブ連盟事務局より
- ・青森県高等学校家庭科技術検定事務局より
- ・第32回全国産業教育フェア青森大会
- ・全国高校生クッキングコンテスト担当校より

6月 高教研家庭部会総会（集会形式によらず書面で実施）

9月 9日（金） 高教研家庭部会研修の部
令和4年度全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会
於 弘前パークホテル（弘前市）

9月14日（水） 令和5年度県高教研家庭部会研究発表大会第1回担当者会議
於 青森県総合学校教育センター（青森市）

10月15日（土） 高教研家庭部会研修の部
～16日（日） 第32回全国産業教育フェア青森大会
於 新青森総合運動公園マエダアリーナ（青森市）他

1 1 月 予 定	高教研家庭部会「令和4年度研究紀要」発行	
	実践発表（誌上発表）	
	テーマ 地域や関係機関等との連携・交流を通じた授業実践	
	青森県立柏木農業高等学校 教諭 小野 照美	
2 月 予 定	テーマ 総合学科福祉健康系列における考え方を働かせた授業実践	
	青森県立七戸高等学校 教諭 玉館 香奈子	
	令和5年度県高教研家庭部会研究発表大会第2回担当者会議	於 青森市
	県高教研家庭部会第2回役員会	於 青森市
2 月 予 定	監査	於 青森市

研究発表大会 研究テーマ一覧

紀要 (集)	年度	研 究 テ ー マ	会 場	会員数	大会参加 者数	大会発表 者数
45	12	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	八 戸 西 高 校	165	112	3
46	13	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	県総合社会教育センター	153	108	3
47	14	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	津 軽 伝 承 工 芸 館	160	118	3
48	15	○新教育課程における指導のあり方	古牧温泉渋沢公園	141	109	3
49	16	○新教育課程における指導のあり方	アピオあおもり 県民福祉プラザ	135	102	3
50	17	○新教育課程における指導のあり方	弘前パークホテル	128	107	3
51	18	○家庭科教育における指導と評価のあり方	サン・ロイヤルとわだ	129	92	3
52	19	○家庭科教育における指導と評価のあり方	アピオあおもり	119	94	3
53	20	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —家庭クラブ活動の活性化を目指して—	弘前パークホテル	115	93	3
54	21	※総会のみ	県総合社会教育センター	115	57	0
55	22	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —実践活動の活性化を目指して—	県総合社会教育センター	116	83	3
56	23	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —実践活動の活性化を目指して—	鱒ヶ沢温泉ホテル グランメール山海荘	115	74	3
57	24	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —実践活動の活性化を目指して—	サン・ロイヤル とわだ	115	72	3
58	25	※総会のみ	ベストウエスタンホテル シティ弘前	117	64	0
59	26	○新学習指導要領における指導のあり方	ホテルサンルート 五所川原	113	83	2
60	27	○新学習指導要領における指導のあり方	ホテルグランヒルつたや 三沢市	117	88	2
61	28	*総会のみ（東北ブロック家庭クラブ研究発表大会のため）	県総合学校教育センター	118	64	0
62	29	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	アピオあおもり	113	69	2
63	30	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	アピオあおもり	107	76	2
64	R1	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	八戸プラザホテル	102	78	2
65	R2	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して *実践発表：紙上発表	—	107	—	(2)
66	R3	○家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践 *実践発表：紙上発表 研修：東北ブロック家庭クラブ研究発表大会	研修：リンクモア平安閣 市民ホール	102	—	(2)
67	R4	○家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践 *実践発表：紙上発表 研修：全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会 第32回全国産業教育フェア青森大会	研修：弘前パークホテル 新青森総合運動公園 マエダアリーナ 他	98	—	(2)